

# 研究室紹介

東京医科歯科大学大学院

## 生殖機能協関学分野

教授 久保田俊郎



東京医科歯科大学産科婦人科学教室は、現大学の前身である東京医学歯学専門学校内に、1944年に初代藤井久四郎教授によって創設されて以来、今年で70年目を迎えた。第2代は斉藤幹教授、第3代は麻生武志教授で、2000年の大学院重点化に伴う改組により、大学院分野名は生殖機能協関学、医学部附属病院の診療科名は周産・女性診療科となった。2006年12月に第4代教授として筆者が就任し現在に至っている。

### 教室員

2014年1月現在の教室員の構成は、教授1名、特任教授1名、准教授1名、特任准教授1名、講師2名、助教7名、特任助教2名、医員2名、研修医6名、大学院生11名からなり、当産科婦人科教室同窓会の会員数は288名を数える。当科の医療スタッフをより充実させるため、茨城県寄付講座「小児・周産期地域医療学講座」(2010年)、寄付講座「女性健康医学講座」(2012年)を積極的に獲得し、大学内でのポストが増加した。これにより各診療・研究グループの内容が充実して臨床件数の増加(図1, 2)にも十分対応できるようになり、臨床業務フリーの大学院生を中心とした研究体制も整いつつある。

### 臨 床

質の高い専門領域からのアプローチができるよう、診療グループを1) 周産期、2) 不妊・内視鏡、3) 腫瘍4) 女性医学に分け、これらのユニットのなかで診療・研究にあたっている。周産期グループは、特任教授と3人の助教(うち2人の周産期専門医)を中心に、昨年のNICU開設以降診療内容がいっそうレベルアップしており、小児科新生児グループと緊密に連携し診療にあたっている。さらに、周産期専門外来の充実、超音波検査(超音波指導医1人)による胎児診断、各種遺伝相談(臨床遺伝専門医1人)や他診療科との連携による合併症妊娠やハイリスク妊娠・分娩の管理などを取り扱っている。不妊・内分泌グループでは、2人の生殖医療専門医と1人の内分泌代謝科指導医を配して、難治性不妊症や種々の内分泌疾患に対処している。生殖補助医療(ART)はIVF-ET・顕微授精、そして解凍胚移植も手がけ、症例数は増えて多くはないものの臨床成績は本邦の平均レベルを保ち、同窓の不妊症クリニックとも連携してART技術の改良や教室員の教育に努めている。悪性婦人科腫瘍に対しては2人の婦人科腫瘍専門医を中心にグループ治療にあたり、根治性の高い手術療法、化学療法、放射線療法を駆使して良好な治療成績を得ている。良性婦人

分娩件数

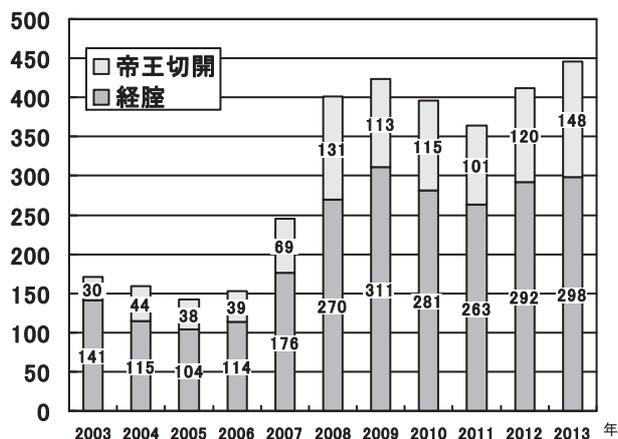


図1 過去10年間の当科分娩件数

手術総数

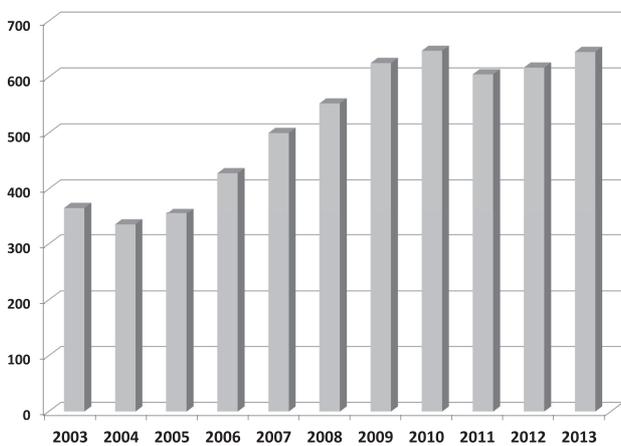


図2 過去10年間の当科手術件数

科腫瘍に対しても内視鏡下手術のレベルアップを目指し、2人の内視鏡手術技術認定医を要して、手術数だけでなく難度の高い手術症例も年々増えている。女性医学領域では、4人の日本女性医学学会認定医・3人の日本女性心身医学会認定医によるホルモン補充療法や漢方療法、管理栄養士による更年期の生活指導などとともに、臨床研究も並行して行われている。

## 研究

現在は、興味深い研究に対する各教室員のモチベーションを重視しながら、臨床医学の立場から種々の研究課題の解明に取り組んでいる。小生の教授就任当時2人であった大学院生を毎年募り研究指導した結果、これまでの7年間で11人が学位を取得し1人が審査申請中で、平成26年度は大学院生11名が在席し、学位取得後の2人が海外留学中である。教室内では、周産期での宮坂特任教授が指導する研究グループと、女性医学での尾林准教

授が指導する血管内皮機能の研究グループ、寺内特任准教授率いる骨代謝・食と栄養の研究グループが主に活動している。生殖と婦人科腫瘍の領域では、本学大学院基礎医学分野、難治疾患研究所、東京大学医学部大学院基礎医学分野との共同研究が、大学院生を中心に活発に行われている。

研究テーマは、生殖領域ではマウスやヒトの受精卵や胚を用いた種々の遺伝子発現やオートファジーに関する研究、Y染色体ノックアウトマウスを使った精子形成能の研究、ヒト子宮内膜や子宮筋への血管作動性生理活性物質の影響など、排卵機序や受精・着床機構の基礎的・臨床的研究を進めている。女性医学領域では、骨芽細胞の増殖や代謝、ヒト・ラットの血管内皮機能へのフィトエストロゲンの影響などを探求し、平成24年からは女性健康医学講座（寄付講座）も開設され、食事・栄養と健康をテーマとした研究も着実に成果を挙げている。周産期領域では、胎児の発育や新生児脳虚血に関する画像解析、正常妊娠や妊娠高血圧症候群における血小板機能、胎盤や臍帯血を材料とする再生医療の研究などが行われ、腫瘍領域では、種々の婦人科癌における癌遺伝子、転写酵素の発現機構の研究や、エピジェネティック変化などに関する分子生物学的研究、MRIの画像解析による子宮体癌の浸潤過程解明の研究などがなされている。

## 教室の目指すもの

当教室では、常勤スタッフと大学院生の協力体制の下、教室内での基礎・臨床分野における研究のレベルアップと、関連基幹病院の社会人大学院生による臨床研究の参画をもくろんでいる。そのために、リラックスした雰囲気なかで各人の才能が十分伸ばせる環境を作り、信頼し合いながら自然に教室内の研究体制が強まるよう心がけている。本年にはいよいよ教室創立70周年を迎え、教室全体の士気が上がりつつある今日この頃である。

